

天沼小だより



校長 大里 忠弘

忙しい毎日、ゆっくり本を読む時間を作るのは難しいですね。それでも、時間を見つけて子育て関連の記事に目を通すと、「なるほど、参考になるな。親御さんたちにも読んでもらいたいな」と思うフレーズに出会います。

『子どもが育つ魔法の言葉』(PHP文庫)もその一冊です。翻訳本ですが、とても読みやすい文章になっています。

例えば、こんな文章です。



・・・・・・・・そうは言っても、現実には忙しかったり、そこまで気が回らなかったりすることはよくあることです。あるとき、わたしの友人は、4歳になる娘がぐずぐずしているのをせき立てて外出しました。その日は用事がたくさんありました。娘の髪のカットにも行かなくてはならなかったのです。

「いそいで。カットに行くんだから。遅れちゃうわよ」

お母さんは言いました。

と、突然、娘は行きたくないと駄々をこね出しました。お母さんはあきれて、娘に「わがままだ」と言いました。娘はその言葉がショックだったのでしょう。そのまま黙り込んでしまいました。

大人からすれば、つい口が滑ってしまった言葉だったでしょう。けれども、子どもにはそうは思えません。娘はお母さんに、「おまえは、わがままだから、悪い子だ」と言われたと思ったのです。

娘はしばらくして、気が落ち着きました。そして、実は前髪をこのまま伸ばしたいのだと打ち明けました。お母さんは、なんだ、そんなことだったのかと思い、わが子の顔をまじまじと見て言いました。

「分かったわ。お店の人にそう言って、前髪は切らないようにしましょうね」

もし、お母さんが、朝の食卓で、カットについて娘ときちんと話をしていたら、二人とも、こんないやな思いはしなくてすんだはずで。

もちろん、どんなに気をつけていても、どうしても、子どもと衝突してしまうことはあるものです。大切なのは、そんなとき、どう接するかです。できるだけ、事情が許すかぎり、子どもに歩み寄ってください。お母さんは娘の要望を尊重し、聞き入れました。今回は、前髪を切らないという小さなことでした。しかし、こういう小さなことの積み重ねが、親に対する信頼を育ててゆくのです。そして、こんな積み重ねが、子どもが思春期に入ったときも、ものを言うのです。子どもが、自分の親は気持ちを受け止めてくれる親だ、信頼できる親だと思っていれば、将来、何か問題が持ち上がったときにも、親に相談し、一緒に解決してゆこうと思うようになるのです。

『子どもが育つ魔法の言葉』(PHP文庫)ドロシー・ロー・ノルト/レイチャル・ハリス

石井千春(訳)

初版は2003年ですので、18年も前なんですね。スマホやタブレット関係の記事は新しいものが良いのですが、子育てとなると大切なことは今も昔も変わらないのだと思います。

子育てに限りません。ほんの一言の言葉選びの誤りや、言葉足らずがもとで予期せぬ誤解が生まれ、関係が険悪になってしまうようなこともよくあることです。相手が子どもであっても、一人の人としてのリスペクトをもって接することが大切なのだと思います。